

# 野ネズミ・モグラの防除法

## 1. 野ネズミの防除法

	物理的手段	化学的手段	生物的・耕種的手段
駆除	捕そ器 (バチンコ、ネズミ取り、カゴワナ) 粘着板	殺そ剤(毒餌) 不妊剤	天敵 (イタチ、フクロウ、ヘビ等)
被害回避	侵入防止ネット 防護ネット 音・音波	忌避剤含有 侵入防止ネット	忌避剤 輪作 圃場の整備(除草)

### 主な殺そ剤と特徴

有効成分	商品名	剤型	濃度 (%)	毒性	特徴
リン化亜鉛	強力ラテミン	粒剤	3.0	劇	効き目が早く、3～5時間で死亡する急性殺そ剤。中枢神経を侵し、呼吸困難に陥る。毒性が高いため、取扱いに注意する。
	メリーネコ リン化亜鉛 Z・P1.00	粒剤	1.0		
		粒剤	1.0		
クマリン系 (ワルファリン)	粉末ラテミン	粉剤	1.0		摂食すると、抗凝血作用で内出血等により死亡。網膜内出血で徐々に失明するため、比較的明るいところで死亡する。累積毒性で、4～5日間連続して食べさせる必要がある。
ダイファシン系	ヤンヂオン	粒剤	0.005	劇	内蔵器官の出血で死亡する。累積毒のため、3～4回連続して食べさせる必要がある。

- 急性毒性殺そ剤：① 短時間でネズミを死亡させるので、野外駆除に便利  
 ② ハツカネズミ、ドブネズミ等、移動性の高いネズミに効果が高い  
 ③ 強い毒性のため、ネズミに食べられにくい面もある

- 累積毒性殺そ剤：① 安全性が高く、他の動物への毒性も比較的低い  
 ② 数日間継続して食べたあとに死亡するので、他のネズミの警戒心をやわらげる  
 ③ 一定期間、連続して食べさせることが必要  
 ④ ワルファリンについては、効果の低い薬剤抵抗性ネズミがいる

※ 殺そ剤は、誤食などの事故防止、雨等による流出防止のため、ベイトボックス(毒餌箱)を用いて、安全に使用する。

## 2. モグラの防除法

わが国で農作物に被害を及ぼすのはモグラとコウベモグラの2種で、関東の平地に見られるのはモグラの亜種のアズマモグラである。肉食であり、直接農作物は加害しないが、採餌活動の時にトンネルを掘るため、農作物の根が切られたり、植えたばかりの苗が倒される等の被害が発生する。モグラによって作られたトンネルがネズミの通路として利用される場合もあり、この被害が大きいこともある。モグラの主な生態は下記のとおりである。

- (1) 活動習性：地中が生活の場だが、夜間は頻繁に地上を歩行するようである。日周活動はかなり規則的で、朝と夕方が盛んである。嗅覚、触覚、聴覚は鋭い。
- (2) 繁殖：3～5月に交尾、5～6月に2～5頭を産む。寿命は3～4年。
- (3) 食性：1日に掘るトンネルは数十mに達し、この間、ミミズ、コガネムシの幼虫、カタツムリ、ナメクジ、クモ、ヤスデ、カエルなどの他、機会があれば小鳥、ヘビ、ネズミなども食う貪欲な食肉獣である。一日に自分の体重の半分から同量以上の餌が必要といわれる。
- (4) トンネル：本道と側道から成っており、その範囲は20～50m四方にわたる。本拠（休息や繁殖のための巣室）は土手などに設けられ、ここから2～3本のトンネルが通じていて、危険が近づくとこのトンネルで逃げる。巣から採食地に至る本道は頻繁に使用されるが、まれにしか通らないもの、一度掘ったあと使われないものもある。トンネルを踏みつぶし、しばらくして元のとおり持ちあがっていたら本道トンネルと考えられる。土が盛り上がったところは遊び穴で、通路ではない。

### 主な防除技術

捕獲器	刺殺式、挟式、パイプ式等を本道トンネルに設置する
音や振動で追い払う	モグラ撃退用の発信器や風車の設置 風車はペットボトル等で自作可
餌を減らす	土壌消毒や殺虫剤の土壌混和により、餌となるミミズなどの小動物の発生を抑える。
通路を遮断する	モグラのトンネルは深くても1m程度なので、周囲の地中に深さ50～60cmの網を張るか、深さ1mぐらいの溝を掘って、進路を遮断する。

### 注 意 事 項

1. 野ネズミは移動する動物であり、広域一斉駆除が最も効果的である。従って農地の駆除ばかりでなく、住宅、畜舎、原野が野ネズミの生息地であり、これらを含めた防除が必要である。
2. 野ネズミは雑草が繁茂した環境を好むため、除草など圃場の整備も重要な被害回避対策である。
3. 殺そ剤は農薬なので、容器・ラベル等にかかれた使用方法に従って使用する。また、人畜に対し有害な薬剤が多いので、取扱いには十分注意するとともに、保管にも注意すること。
4. 野ネズミの防除の時期は、秋は巣穴が発見しやすく農閑期でもある11～12月、春では繁殖に入る前の2～3月が適期である。

### 3. 野ネズミの特徴

種類	ハタネズミ	アカネズミ	ハツカネズミ	ドブネズミ	クマネズミ	[野生クマネズミ]
頭胴長(mm)	106~125 ずんぐりしている	85~118 ほっそりしている	53~103 小さい	220~260 大きい	180~235 ドブネズミに比べほっそりしている	160~200 クマネズミに比べやや太い
尾長(mm)	34~46 短い	68~112 体長よりやや短い	40~102 細く長い	175~220 太く短い	171~258 長い	150~200 クマネズミに比べやや短い
後足長(mm)	18	24	15	40	32	40
耳長(mm)	12 小さく体毛に埋まる	15 大きい	12 大きい	20 クマネズミに比べ小さい	24 大きい	24 卵形で体毛よりつき出る
毛色	背面	褐色、黒色	赤褐色	灰褐色	褐色、黒色	褐色、黒色
	腹面	白色、灰色	白色	白色	灰色、黄灰色	黄灰色
平均体重(g)	25~35	50~60	15~20	200~500	100~200	100~150
行動半径(m)	15~20	50~70	10	100~200	50	150~300
行動性	巣の周辺	巣の周辺	巣の周辺、移動性もある	移動性	巣の周辺	移動性
動作	やや緩慢	俊敏	敏捷	どうもう	俊敏	敏捷
営巣	坑道巣穴に営巣	木の根元、坑道巣穴	単純な巣穴、木の茂み等	単純な巣穴、物陰等に営巣	渠、屋根裏、板壁裏等に営巣	灌木の茂み、石垣の隙間
分布	本州、九州	全国	全国	全国	全国	奄美大島、沖縄、小笠原諸島、東南アジアに広く分布
生息地	畦畔、草地、山林、牧野	林野、丘陵草地、溪流周辺	雑草地、家屋内、灌木林	野生、暗渠、家屋内侵入、鶏舎、倉庫周辺	家屋内、倉庫	草地、林野、サトウキビ畑畦畔
食性	主に植物性	植物性、昆虫等	植物性	雑食性	主に植物性	植物性、昆虫等
繁殖(年間)	3~9匹 ×5~9回	3~7匹 ×5~6回	5~7匹 ×9~10回	3~9匹 ×5~6回	5~6匹 ×5~6回	5~6匹 ×5~6回
繁殖期	6~7月、10~11月	5~6月、9~10月	冬期は減少	冬期はやや減少	冬期はやや減少	一年中繁殖
寿命	1.5~2年	1~1.5年	1~1.5年	約3年	約3年	約3年
主な(そ害)対象地区	田畑、牧野、河川草地、施設園芸、納屋、室、桑園、果樹園、苗ほ、山林	山林及び山林に近い農耕地、牧野	落花生畑、茶園、施設園芸、トウモロコシ畑、納屋、室、食糧倉庫	田、畑、施設園芸、養鶏場、畜舎、養魚場、納屋、飼料、食糧倉庫、家屋	家屋、納屋、穀物飼料倉庫、養鶏場、畜舎、養蚕場	田、畑、サトウキビ畑、パイナップル畑、アラブヤシ園

[日本植物防疫協会:野そ防除必携より]